

令和2年度

第2回多治見市福祉施設指定管理者候補団体選定及び評価委員会議事録

日時：令和2年7月15日（水）

9:30～11:40

場所：多治見市駅北庁舎4階大ホール

出席委員： 麻生みゆき委員、伊藤徳朗委員、今村嘉津子委員、高橋光弘委員、  
花井文治委員、前田美紀委員、森久雄委員（50音順）

事務局： 福祉部長 鈴木良平、福祉課長 春田正孝、高齢福祉課長 山崎興  
一、福祉部課長 勝見祐子  
福祉課 島津和世、渡辺千香子、高齢福祉課 三宅かおり、子ども  
支援課 丹羽智裕、桂川美德

- 1 あいさつ
- 2 委員委嘱、委員長・副委員長の選出
- 3 議題

次期指定管理者の選定について

○事務局 ただいまより、令和2年度第2回多治見市福祉施設指定管理者候補団体選定  
及び評価委員会を開催する。初めに、鈴木福祉部長から挨拶いただく。

（福祉部長 挨拶）

○事務局 委員の委嘱について、令和2年5月24日付で委員全員の任期が満了したた  
め、翌5月25日付で委嘱した。委嘱状は机上に配付しているため確認いただきたい。

次に、今回が委員委嘱後初めての委員会であるため、委員長、副委員長を互選いた  
だきたい。立候補があればお願いしたい。

（立候補なし）

○事務局 立候補がないため、事務局から委員長、副委員長を推薦したいがいかがか。

（委員から「異議なし」の発言あり。事務局推薦により委員長・副委員長決定。）

○事務局 議事進行について、委員長にお願いする。

○委員長 事務局から会議の成立、委員会の流れ等について説明願う。

（事務局 会議の成立、資料確認、会議の流れ、会議の公開について説明）

○委員長 今までの説明で質問はあるか。

（質問なし）

○委員長 次に、審査方法について事務局から説明願う。

（事務局 審査方法について説明）

○委員長 今回、申請者は多治見市社会福祉協議会のみであった。それでは、申請者に  
入室いただく。

(申請者 入室)

○委員長 まず、多治見市総合福祉センター、サンホーム滝呂、ふれあいセンター姫の提案説明をお願いします。

(申請者 説明)

○委員長 ただいまの説明について質問はあるか。

○委員 特になし。

○委員 障害者福祉センターで行われている、障害者を対象とした各種教室から、サークル活動に移行した事例があればお聞きしたい。

○提案者 障害者福祉センターでは15の教室を行っており年間約3,500人が利用している。知的障害者の方が自主的に運営している教室が、毎週土曜日に開催されている。

○委員 ひきこもりの方へ教室の参加を促す取組は、これまでも行ってきたものか。これまでも行ってきた場合、その内容を伺いたい。

○提案者 これまでも、電話等で参加を促してきたが、一度利用を休止してしまうと、次の参加が難しくなってしまう。現在10名ほどに手紙や電話、訪問等、工夫をしながらアプローチをしている。

○委員 一つ目に、地域組織の活動支援について「複合施設が設置されている地域」とは、総合・滝呂・姫の3センターが立地している地域に限定しているか、それとも地域福祉協議会が設置されている地域も含むか。二つ目に、児童センターで行う学習支援は貧困世帯に限ったものではないか。事業内容を伺いたい。

○提案者 地域組織の活動支援は、市全体を対象としており、3センターはその拠点としての位置付けである。指定管理事業としての学習支援は、母子・父子福祉センターで行う習字教室を指しており、貧困世帯やひとり親家庭の中学生を対象とした学習支援については、指定管理事業とは別の委託事業の中で行っている。

○委員 総合福祉センターのトイレは故障が多く、使えないことが多い。ぜひ改善いただきたい。

○提案者 トイレについては、来年度に市で改修し、全て洋式トイレとする。

○委員 特になし。

○委員長 一つ目に、最低賃金が上がっている中で、次期指定管理期間の人件費が横ばいになっているが、何か工夫していることがあるか。二つ目に、大規模災害時の備えとして何か考えていることがあるか。三つ目に、近年、外国人が増加傾向だが、総合的な相談窓口を設ける等、外国人対応について取り組んでいることがあるか。四つ目に、建物内が全体に暗いと感じるが、照明等を含めて改善する予定があるか。最後に、基幹相談支援センターとの連携について、考えを伺いたい。

○提案者 人件費は、社協の中で他にも委託事業や独自事業があるため、それらと按分して対応しており、指定管理委託料の中で賄えるように工夫している。次に災害対応について、総合・滝呂・姫の3センターは避難所としての一面もあり、施設のバリアフリー化が進んでいる。特に総合福祉センターは災害救援ボランティアセンターの設置場所でもあるため、新型コロナウイルス対応を含め、災害時を想定した各種訓練を

実施している。なお、災害救援ボランティアセンターの運営は多治見市単独で行うことが難しく、2年前には東濃5市で連携して相互扶助の仕組みを構築し、合同訓練を実施。今年6月には陶都ライオンズクラブと協定を締結するなど、関係機関との連携を進めている。災害時には職員全員の迅速な対応が重要であり、「災害時行動計画」を策定し、年2回、確認を行っている。次に、外国人に対する相談窓口について、令和元年10月から生活相談センターを立ち上げており、コロナ禍の中で、外国人の相談件数も増えてきた。外国語が堪能な職員がいないが、他の機関等からの応援やピクトグラムの導入等、外国人が利用しやすい環境づくりに努めている。施設内の照明は市と協同で順次、LED化を進めており、階段や廊下、駐車場等の主要な部分は既に完了した。今後は各部屋のLED化を進めていきたい。最後に、基幹相談支援センターとの連携について、今年度からは相談支援センターと連携し、ひきこもりの方の情報共有を行うなどの計画を立てていたが、コロナ禍の中で対応が難しくなった。実績は一人だが、障害者福祉センターに通所していた方をB型事業所での就労に繋げることができた。

○委員長 他に質問はないか。

(質問なし)

○委員長 次に、多治見市かさほら福祉センターの提案説明をお願いします。

(申請者説明)

○委員長 ただいまの説明について質問はあるか。順番にお聞きする。

○委員 障害者の自立支援については本人のニーズとの摺合せが難しい。身近で相談に乗ってくれる仕組みづくり等、自立支援についてどのように考えているか。

○提案者 自立支援とは、本人がどうしたいのか、何を望んでいるかを把握し、それに対してどのような提案をしていくかだと考える。本人が安全に生活できるように配慮した提案が必要。

○委員 楽しい講座が多く、福祉まつりも活気があるが、どのように広報しているか。

○提案者 地域福祉協議会や地域包括支援センターに協力いただき、また、町内回覧等を通じて広報を行っている。

○委員 笠原地区は非常にまとまりがある。事業内容の中に、ボランティアの養成や活性化の提案とあるが、未来を担う児童・生徒の福祉教育の推進について、具体的な計画等あれば伺いたい。

○提案者 市の「地域福祉計画」に「福祉教育読本を利用した福祉教育の推進」とあり、社会福祉協議会と連携して行っていくとされている。社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」の中でも、家庭や学校、地域における福祉教育の充実を掲げており、子ども達が取り組みやすいメニューを「出前講座」として用意するなど、先生方と相談しながら、体験学習や講和等を通じた福祉教育を行っている。

○委員 地域の各種団体と連携した取り組みについて、今後5年間で、どのようなかわり方をしていきたいと考えているか。

○提案者 地域では認知症徘徊訓練等を行っているが、今後は認知症の方が増える可能

性が高いため、認知症講座も開催する予定。また、地域独自の支援マップを作成し、地域資源として利用できる人材等がないか、事業所の内容を掲載する等したものを全戸配布している。あわせて、笠原地域福祉協議会と連携し、地域ボランティアの育成も行っている。

- 委員 笠原はコミュニティが十分に形成されている地域だと感じたが、将来的には高齢化が進み、現在の状況を維持することが難しくなるのではないかと思う。例えば、老人クラブでは役員をやりたい方が減るなど、会の運営にも影響する可能性が出てきている。後継者の育成が今後の課題であるが、よい考えがあれば伺いたい。
- 提案者 確かに後継者の育成は重要であるが、こちらが待っていても、また指示しても効果は少ないと思われる。日ごろの活動の中で相談体制が作られていることが重要であり、日ごろから情報共有の機会を設け、活動にあたって、どのような課題があるか、それを解決するにはどうしたらよいか等を一緒に考えている。
- 委員 かさはら福祉センターは施設の構造、機能ともに非常によく、利用者も多いが、市の方針で廃止になると聞いた。非常に残念である。
- 提案者 当初は市の適正配置計画で施設の廃止が掲げられていたが、その後、住民意見を反映し、廃止が延期された。その間はしっかりと取り組んでいく。
- 事務局 次期指定管理期間内は継続することとしており、地域の意見や施設・設備の老朽化の課題等を踏まえ、今後5年間で検討していく。
- 委員長 地域の人材活用について、地域に入りながら人を育てる「伴走型」であると解釈したが、その内容をもう少し詳しく伺いたい。
- 提案者 ボランティア団体やサロン活動においても、後継者の育成が課題となっている。「地域福祉活動計画」の中でも重点項目として後継者不足を改善するためのリーダー研修を行うことを定めており、現リーダーに対して行う研修と、次のリーダー育成を目的にした研修など、社協全体で取り組んでいくこととしている。
- 委員長 他に質問はないか。  
(質問なし)
- 委員長 以上で提案説明及び質疑を終了する。選定結果は後日通知するため、申請者は退室願う。  
(申請者退室)
- 委員長 それでは、提案説明や質疑等を踏まえて、審査をお願いする。  
(委員 採点・審査)  
(事務局 採点表を集計し報告)
- 委員長 施設別に評価項目ごとに点数を確定する。  
(項目ごとに点数を確認し、最終点数を決定)
- 委員長 採点の結果、総合福祉センター、サンホーム滝呂、ふれあいセンター姫が87点、かさはら福祉センターが91点となり、最低基準の60点を超えたため、双方ともに申請者である「社会福祉法人 多治見市社会福祉協議会」を次期指定管理者候補団体としてよろしいか。

(異議なし)

○委員長 それでは、次期指定管理者候補団体を「社会福祉法人 多治見市社会福祉協議会」に決定する。最後に事務局から連絡事項をお願いする。

(事務局 第3回委員会の案内及び資料の説明)

○委員長 これにて、第2回多治見市指定管理者候補団体選定及び評価委員会を終了する。